

お堂に手を合わせる家族連れ—榎原市



榎原「すももの荒神さん」

「すももの荒神さん」の愛称で親しまれ、厄除けや交通安全を願う祭り—三宝大荒神—が28日、榎原市小網町の飛鳥川河畔で営まれ、浴衣姿の子供らが初夏の夜を楽しんだ。

三宝大荒神は桜井市の笠山三宝荒神、野迫川村の立里荒神とともに県三大荒神の一つで、地元で最も早い夏祭り。スモモが収穫できる季節に営まれるため、愛称がついた。

浴衣姿で 初夏の夜楽しむ

この日から浴衣を着ると厄除けになると伝えられている。この日は入鹿神社に安置されている荒神像が、飛鳥川堤にある三宝大荒神遺跡内の小さなお堂に運び込まれ、この日だけ出開帳された。娘の愛心ちゃん(3)、夫の直人さん(38)と3人で訪れた榎原市の小山菜月さん(26)は「娘がちゃんと自分で歩いて来られてよかった。来年もまた来たい」と話していた。